

ハウレンソウ

- ・原産地は、中央アジア。日当りのよいアルカリ性土壌を好む。**アカザ科野菜**
- ・冷涼な気候を好み耐寒性は強い野菜。暑さに弱く、乾燥にも弱く生育も悪くなり病気の発生も多発する。
- ・緑黄色野菜の王様とも言われている。
- ・東洋種、西洋種、交配種、赤茎、サラダと品種がある。

栽培ポイント

- ・連作は避ける。(1年以上あける) 加湿な土壌は嫌うので高畝にする。
- ・酸性の土壌に弱いので、しっかりと石灰資材を施用して酸度(PH)調整する。
- ・栽培時期に合った品種を選定して播種をする。

栽培カレンダー (収穫まで約30~40日)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
一般地			○	—	—	○				○	—	—	○	
				□	—	—	—	□			□	—	—	□
		○ 播種						□ 収穫						

栽培手順

1.土づくり

- ・酸性土壌を嫌うため、播種の2週間前には苦土石灰を散布して耕しておく
- 1週間前には堆肥、元肥を散布。
- ・畝は、高さ10cm、幅60~70cm

元肥	完熟堆肥		300kg
	苦土石灰		10kg
	苦土重焼燐	0-35-0	4kg
	燐硝安加里	16-10-14	4kg
追肥	燐硝安加里	16-10-14	3kg

施肥例 (100m²)

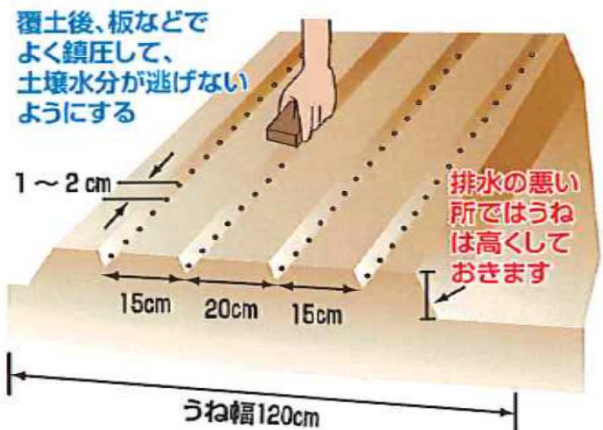
2.播種

- ・4~5条の条間15~20cmのすじ播きをするして軽く覆土する。
- ・発芽適温は15~20℃

【一斉発芽が大事】

ハウレンソウは早く一斉に発芽させることが上作の基本

1cm程度に一定の深さのまき溝を切って、種子を1~2cm間隔くらいにまき、覆土をして鎮圧します。本葉2~3枚までに最終間引きを行い、秋まきは株間を5cm、春・夏まきは株間を7~8cm程度にします。密植すると葉色が淡くなつては肉が薄く、株張りも悪くなります。



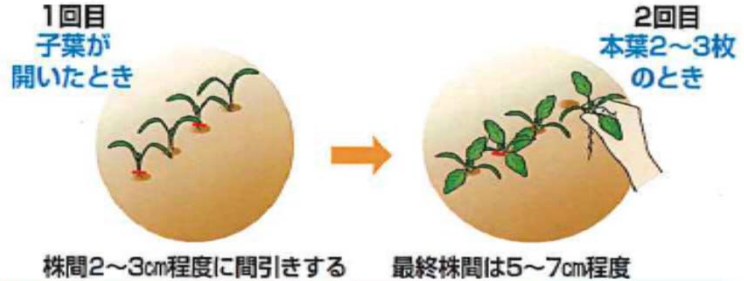
(参考:タキイ種苗)

(参考:タキイ種苗)

3.間引き

- ・本葉が2～3枚の時に3～5cm間隔に間引く。

【間引き】 株間が狭いと株数は増えますが、1株の葉数が少なくなります。また葉柄も伸びて徒長し、病気が発生しやすくなります。反対に株間が広いと葉数が多く、葉幅も広くなり1株のボリュームが増します。ただし草姿が開きやすく、収穫作業がしにくくなります。



(参考:タキイ種苗)

4.被覆資材の活用

- ・高温期は遮光資材を施用して温度調節を行う。
寒い時期はトンネル、有効ポリなどを使い寒害対策をする。

生育前半が低温化にあたるため、保温資材を活用して初期生育を促します。べたがけ資材(テクテク、バオバオなど)を利用すると発芽や生育がよくなります。彼岸を過ぎると日長が長くなり抽苔チュウタイが問題になるので、晩抽性品種を栽培します。高温・乾燥・肥料切れなどは抽苔チュウタイを促進するので注意が必要です。※気温や日長などにより花茎(かけい:花をつけた茎)が伸びだすことを抽苔チュウタイという。また、とうだちともいう。



(参考:タキイ種苗)

5.収穫

- ・春栽培で25～30日、秋栽培で40～50日が収穫適期。